

## 平成 30 年度第 13 回政策会議概要

- 1 開催日時：平成 31 年 2 月 21 日（木）10:30～10:45
- 2 開催場所：プレゼンテーションルーム
- 3 議事概要：以下のとおり  
（●議題提出部局説明・回答、☆意見・質問）

### 議題 1 不適切な事務処理及び不祥事の再発防止に向けて

#### ●佐波コンプライアンス推進監【総務部】（資料 1 に基づき説明）

コンプライアンス懇話会委員からの意見等をふまえ、不祥事と不適切な事務処理を区分し、当面の重点的事項を設けたうえで、具体的な内容を盛り込んだ最終案を作成していきたい。

#### ☆井戸畑環境生活部長

取組にメリハリを付けていくことには賛成だが、今の体制でやれるかどうかについては懐疑的である。例えば、風通しの良い職場づくりにしても、一人の課長が 20～30 人の全職員と面談して状況を把握するというのは無理ではないか。もっと班長を活用できるようにしていくべきと考える。

#### ☆西城戦略企画部長

班長に対して「以前の係長のように仕切れ」と言っても及び腰である。業務負担なのか負担感なのか、人は減ってきたが仕事は減っていない。当部では職員満足度も下がってきており、業務を減らさないといけないという危機感はある。

#### ●嶋田総務部長

人を増やせる状況にはなく、限られたリソースでやっていくしかない。事業の見直しも含めて、業務量の制御は必要である。また、職員の状況については、面接だけではなく、常日頃の対話により把握することも大事だ。

#### ☆河口観光局長

コンプライアンスの徹底は必要だが、業務の簡素化とセットであるべきだ。働きやすい環境をつくったうえでないと、職員がついてこない。

#### ☆山神企業庁長

班長に対して求めるものは多く、負担がかかっているのは事実である。班長の処遇について、検討をお願いしたい。また、不祥事等を起こしている職員の年齢層は高く、若い職員がどのように感じているか。世代的な背景が原因にないのかという点も分析いただきたい。

#### ☆中川廃棄物対策局長

以前は、顧客満足度と職員満足度を一体として取り組んでいた。職員満足度向上の取組も必要ではないか。

#### ☆稲垣副知事

不祥事と不適切な事務処理は切り分けて考えるべきだ。不祥事は、業務量や負担感、体制以前の問題である。事務処理については、指摘が当たっている部分もある。班長の役割は、再度議論が必要かもしれない。業務量の過重は、今一度、それぞれが仕事を見つめ直すことも必要である。

#### ☆服部危機管理統括監

当たり前のことを当たり前にやっていこう、というのがコンプライアンスの取組だ。一字間違えただけのことを全て公表しているわけではなく、長期間処理していなかったなど、県民に多大な影響を与えたものを不適切な事務処理としている。負担感があるから解決できない、というわけにいかない。いかに早く気づいて、マネジメントをしていくかが大切である。

#### ☆鈴木知事

このような取組を進めていく場合、業務量、体制、システムも大切である。息の長い取組として続けていくことが必要だが、まずやるべきことは、県民からの信頼回復だ。そのために取り組むべきことを示していくものであり、順序としては、県民の皆さんにご理解を得ることが先になる。業務量の問題と負担感の問題は異なっており、指示の仕方やコミュニケーションによって納得感が得られれば、負担感は解消していくこともある。

昨日も不祥事の発表があり、現在、県民が県を見る目は厳しい。その点をふまえて、若い職員が誇りをもって仕事をやっていけるようにする、そのような視点で取り組んでもらいたい。